

平成 13 年度事業報告

1. 自主研究「IT 活用による生活向上の可能性」 「IT 活用による一般住民の社会生活向上の 可能性について」の研究状況

(財)和歌山社会経済研究所
研究部長 梶谷 昭 治

IT の活用に関する調査研究は多いが、主として企業や地域の活性化の視点、或いは一般住民に対しては、今の使用状況・将来使用するかどうか・希望するコンテンツは何かなどの視点で行った研究が殆どである。今回、地域経済研究機構では「ある意味では手段に過ぎないIT」を活用することによって、社会生活の利便性が向上するのは当然としてこの状況を調査想定しつつも、真の意味で「一般住民の社会生活向上の可能性」は有るのか、有るとすればどのようにITを活用しなければならないのかを合わせて研究している。

1. 研究メンバー

研究リーダー (財)和歌山社会経済研究所 梶谷

事務局 商工会議所 矢田課長

和歌山大学 笠井助手

研究メンバー 和歌山大学 岩田・大津助教授

辻本・重井講師

商工会議所 西山室長 中浴主事

和歌山県 (瀧本班長) 川口主査

和歌山市 太田班長

N T T 西日本 大谷室長

(財)和歌山社会経済研究所

(北主任研究員)

* () は移動

2. 研究経緯

	開催月日	主たる研究内容	主な資料
第 1 回	H13.8.3	研究調査計画の検討	研究調査計画(案)
第 2 回	H13.9.7	和歌山の現状と将来予測 和歌山情報基盤の現状と整備計画	新技術の予測 IT コンテンツ 情報基盤整備、電子自治体構想内容と各地の状況
第 3 回	H13.11.2 (長時間討議)	IT 関連新技術の動向 電子自治体の内容と各地自治体の動向 和歌山県内の取り組み状況 IT の進歩と新サービス	ITS・医療・教育・福祉・流通・金融などの動向
第 4 回	H14.2.8	基本的論点をどうするか 視察先進地の候補地検討	基本論点に係る各種資料 先進地の状況
第 5 回	H14.3.8	視察先進地の状況と質問事項の確認 基本的論点の継続検討	各地への質問事項 第 1～4 回まとめ資料
第 6 回	H14.4.5	先進地視察結果の確認 都市部と過疎部の IT 活用生活の想定	視察結果の報告書 各種新サービスとライフスタイル
第 7 回	H14.6.14	我々自身が IT をどう使うか (本音トーク)	和歌山各地のライフスタイル
先進地視察	H14.3.18 -H14.3.20	岡山県 岡山市・新見市 広島県 君田村・吉和村・(株)マツダ	

今後、2 回開催して 7 月終了、8 月報告書をまとめの予定

3. 調査研究の内容

- (1) 現状の和歌山社会経済の実態と問題点、社会経済環境の将来変化を調査、想定する。特に和歌山の地域特性を明確にする。
- (2) 通信基盤整備と IT 関連技術の将来想定及び実現が想定される IT を活用した社会とライフスタイル
- (3) IT の進歩と活用で実現する理想的な社会(高度情報通信ネットワーク社会形成基本法やその他で語られている理想的な社会)、及び最低限実現すべき社会を想定する。
そして、それぞれの社会を実現するための問題点と課題を検討、整理する。
- (4) このせめて最低限実現すべき社会が達成された時に、こ

の高度情報化社会が持つであろう問題点と課題を検討、整理する。

(5) 上記を踏まえて、ITの活用によって一般市民の真の意味での社会生活向上の可能性があるのかを考察する。

4. 基本的な考え方

一般住民の社会生活の向上とは、ITなどの利用による利便性の向上などが当然考えられるが、基本的には「安全で衣・食・住・健康など生活の心配が将来的にも無く、物質的にも精神的にもより豊かな生活を、より確実におくことが出来るようになること」であろう。このためには、社会生活の基本となる雇用・年金・健康保険などがしっかりと保証されていることが必要である。しかしながら、少子高齢化・人口減少という社会経済システム基盤が大変動する時期を迎える前に、すでに雇用・年金・保険などの基本システムがおかしくなっているのが現実である。そして根本的な対策を打つにもお金がなく、先送りしても生産年齢人口が減少するので、この事態はますます深刻になる一方である。結局、単にITを利用するだけであれば、一般住民の社会生活は逆に低下することは確実である。この深刻な問題解決のためにどのようにすれば、ITの持っている大きな力を発揮させることが出来るのか、ITの役割は何なのかなどを考察、整理することが重要である。

従って、一般住民の社会生活向上のための本質的な対策、これは取りも直さず遅々として進まない「聖域なき構造改革の推進と実現」であるが、このためにITを如何に活用すべきか、活用できるのか、ITが力を発揮できる条件は何なのかなどの視点から検討している。

真の構造改革が進まなければ、行政をはじめとした新しい時代に対応できない種々の日本型システムが維持され、その結果、如何にITを活用しても一般住民の社会生活は低下することになるであろう。

しかし、新しい時代に適応できないこれらの日本型システムが維持されている根本原因のひとつが情報の独占にあると思われるので、手段には過ぎないITの活用が重要なカギと

なる。失われた 10 年、そして今なお続いている効果のない公共事業費を社会生活向上のための有効な事業に集中して投資するために、どのような情報を取得し、分かりやすく整理し、どのような手段で、誰に発信するか。このような真の情報公開をもとにして効果のある政策決定するために住民の合意形成をどう図っていくのかが重要で、これらを可能にするのが IT の秘めた力そのものであると考え、議論を進めている。

5. IT 研究会の内容抜粋～ある家族のライフスタイルから～

・公的支援がなく、128Kbt の IDSL が整備される中辺路町民のライフスタイル

人物像	プロフィール	IT を使うある一日
夫 農業 (58 才)	化学肥料や農薬を使った農業から有機農業への転身を図り 7 年目。環境を考える消費者にターゲットを絞り、HP 上で農作物の販売を行なう。IT 技術は大学卒業後中辺路に帰ってきた息子からを教えてもらい、今では地域情報化推進のリーダーとして頭角を現すまでになった。現在はボランティアとして地域住民に IT 技術を教えている。	有機農業の農家と新しい農法など ML で情報交換を行なう。また、農作物販売用のサーバを立ち上げ、在庫の管理確認、商品の宣伝、発送手続などの顧客管理を行い、IT を駆使した直接販売は軌道に乗り出している。 また、環境を考える NPO 諸団体とネットワーク上で連携を組み、農作物に関する環境問題を集約した HP の作成を行なう。
長男 語り部 (28 才)	大学卒業後、下落した土地を購入し、実家近くに自分たちで建てた一軒家に住む。世界遺産に登録された熊野古道を守る会の事務局で働く。熊野古道の広報活動を行う一方、観光客の急激な増加に対応すべく、古道周辺の環境保全や安全性の確保に携わる。	世界遺産に登録された熊野古道を世界に PR する為、鳥の鳴き声や風の音などの自然の音を満載した HP を数カ国語で作成。HP は毎月更新し、熊野古道の名所のライブ中継、特定の名所の特集などを行い、アクセス数をのばしている。また、自動翻訳機能を駆使し、外国からの問い合わせのメールに返答している。
妻 民宿経営 (28 才)	大学で出会った長男と熊野古道を通して付き合う。熊野古道にひかれ、中辺路で生活することを決意。中辺路に来る前に働いていた旅行会社での観光開発のノウハウを見込まれ、民宿経営を任されるようになった。	民宿経営者の ML に加入し、最新情報の交換を行っている。 大学の友達とはメールで連絡を取り合うが、友達との集まりにも参加したい。そこで、最近ではチャットの拡大版である画像と音声を送受信できる環境を少しずつやましく思っている。

・CATVにより基盤整備が整う熊野川町民のライフスタイル

人物像	プロフィール	ITを使うある一日
おしい ちゃん (75才)	<p>林業を営む生活が一段落し、ゆっくり過ごす毎日。健康の調子が芳しくないときには、医療センターがオンラインで提供する健康相談サービスを利用している。</p> <p>月に1,2回、林業体験の講師をボランティアで務め、森の間伐方法を教えている。また、趣味の川釣りを思う存分楽しむ毎日を送っている。</p>	<p>地域のIT推進役の人達のサポートを得て、趣味の釣り情報満載のHPを立ち上げた。HPに設けた掲示板を通して全国に釣り友達ができた。</p> <p>疲れがたまってきた時には、ネットワークを用いた健康相談を受けている。いざというときにも蓄積された健康相談のデータが活用されるため、安心である。</p>
夫 和大 教授 (45才)	<p>和歌山大学が和歌山県の紀南地域にサテライトを設置したのに伴い、紀南に住居を移し、10年が経った。週1回は和歌山市の和歌山大学で授業をし、週2回は田辺で授業を行なっている。</p> <p>月1回、生活環境の改善について話し合う会が行われるため、夫婦交代で参加している。</p> <p>また、自宅にいる3日間は家事担当。冷蔵庫に内蔵されている献立の画像を触れるだけで、作り方や食材が出てくるので食事作りにはまっている。</p>	<p>各機関が発行する報告書も多くのものが電子化され、ネットワークを介して手に入れることができるようになり、大学でも自宅でも研究環境は変わらない。自宅から行なう情報収集の時間はかなり減少したが、大量にある情報の中から必要な情報を選択するのに時間がかかるようになった。</p> <p>また、ゼミ生には個別にメールで研究指導を行なう一方、インターネットを介したテレビ会議システムを利用して、随時研究相談を受けている。</p>
妻 デザイ ナー (45才)	<p>熊野川町において通信基盤が整ってきたことにより、デザイナーの資格を活かし再び働き始めた。デザインの仕事場は、近くの高速通信基盤が整備されたサテライトオフィスと自宅との選択性である。オフィスまでの距離は近いので、気分転換に通勤することになっている。</p> <p>また、以前は買い物一つを取っても店が少なく、不便だったが、最近は日用品の購入もHPで行ない、配達してもらうことができるようになり、働きやすくなった。</p>	<p>システムキッチンに内蔵されているインターネット機能を活用し、献立を考える。献立に必要な食材はインターネットを通して購入。手動設定により夫婦や家族で考える事もできる。</p> <p>オフィスではデザイン依頼の引受け、コンピュータを用いたのデザイン製作、注文デザインの送信を行なっている。能力が認められ、かねてから構想中であった熊野川町の自然をモチーフにしたデザインの作成、3DCGの作成が依頼された。</p>

人 物 像	プロフィール	IT を使うある一日
長男 中 2 (14 才)	<p>高校の学区制は完全になくなり 選択肢が増えたため、インターネットで情報収集を開始。情報収集の結果、和歌山市の高校と地元の高校に興味を持ったが、決めかねている。</p> <p>学校では外国との通信授業があり 情報関係の授業は必修となった。自宅ではインターネット塾の講座を受けている。</p>	<p>コンビニがなく、2日遅れでしか手に入らなかったマンガ雑誌がインターネット上で配信されるようになった。</p> <p>模擬試験はインターネット上で受けることができる。が、つつい部屋の参考書が気になってしまうため 一度テスト会場での模擬試験を受けてみようとも思っている。</p>
次男 小 6 (12 才)	<p>通信基盤が整っている熊野川町では小学校の総合学習の時間でパソコンを使った様々な取り組みを行っている。授業も本校との通信授業を行っている。最高学年になり単に情報を集めるのではなく 情報発信を行う授業が多くなった。</p>	<p>小学校の 1年生から総合の時間でディベートやインターネットを用いた情報収集・情報発信 HP 作成などを行ってきた。最高学年となった今年はその集大成として外国との公開ディベートを行う予定。</p>